

青枠：①層の色調に関する部分

149のエビデンス (2/10)

作成日 2022/3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022.3.28

No.	地層の特徴に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由						
			地質名	地質の特徴			地層構造	地層境界の整合・不整合		土質・地質	走向・傾斜	スケッチ原図(基盤岩)							
			・粒度構成、礫の形状、粒径、堆積、埋り具合	・礫の酸化	・含有物(有機質、貝殻など)	・その他、断面と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その関係も併せて記載。	・地層構造、整合関係、層理、葉理、柱状など	・土質など、地層構造・地層境界を示すもの	・走向・傾斜	・地質名	・風化・変質	・割れ目・せん断割れ目	・割れ目ではその面を最も代表する層所で測定するようにし、局所的に異なる方向が交代している箇所では測定しない。	・割れ目・せん断割れ目	・割れ目ではその面を最も代表する層所で測定するようにし、局所的に異なる方向が交代している箇所では測定しない。	・走向・傾斜	・割れ目ではその面を最も代表する層所で測定するようにし、局所的に異なる方向が交代している箇所では測定しない。	
	淡黄褐色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。標準30~60%で、径20cm以下を主体とし最大径40cmの歪角礫からなる。高質は多い。高質は中~極粗粒砂からなる。	淡黄褐色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。標準30~60%で、径20cm以下を主体とし最大径40cmの歪角礫からなる。高質は多い。高質は中~極粗粒砂からなる。	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	色調(淡黄褐色)と色調を示す記号(7.5YR7/3)が整合していない。断面写真も確認。色調(淡黄褐色)が正しく色調を示す記号の書き間違いであると判断した。	
Q ₄	風化花崗岩。淡黄褐色(7.5YR8/4)		-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	○	-		
No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由						
			破砕部の性状	破砕部の構成		破砕部の連続性・連続性	破砕部の厚さ	破砕部の形状	破砕部の分布	破砕部の向き	破砕部の大きさ	破砕部の色調	破砕部の形状	破砕部の大きさ	破砕部の色調	破砕部の形状	破砕部の大きさ	破砕部の色調	
			・破砕部の性状	・破砕部の構成	・破砕部の連続性・連続性	・破砕部の厚さ	・破砕部の形状	・破砕部の分布	・破砕部の向き	・破砕部の大きさ	・破砕部の色調	・破砕部の形状	・破砕部の大きさ	・破砕部の色調	・破砕部の形状	・破砕部の大きさ	・破砕部の色調	・破砕部の形状	

スケッチ名 D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ④スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

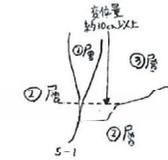
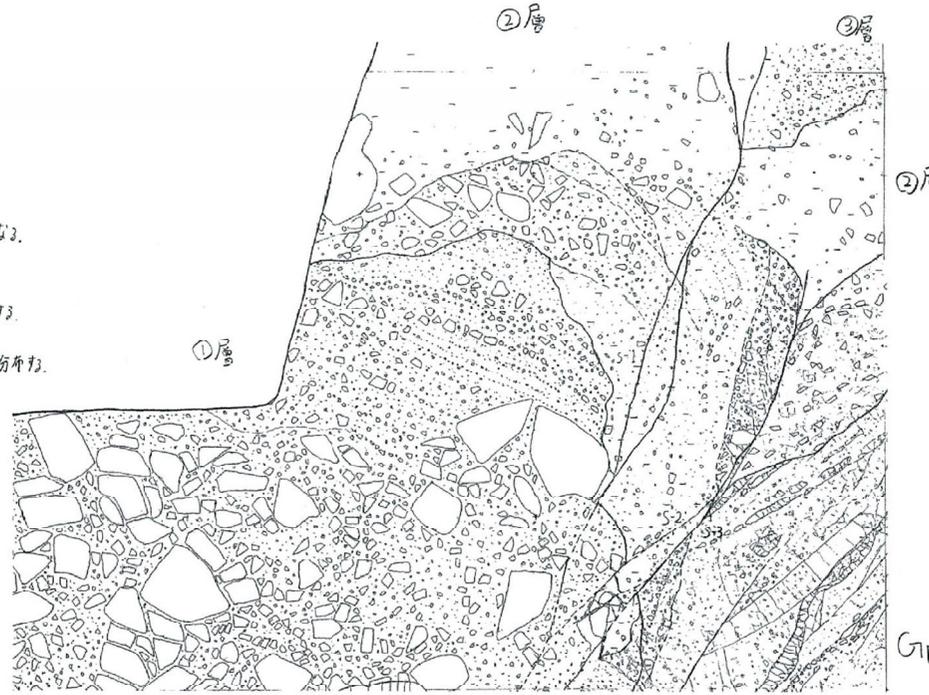
○

スケッチ

- ③層
- ・石少石礫主体
 - ・浅黄橙 (7.5YR 8/3)
 - ・径 10cm 以下の亜角石礫からなる
 - ・石礫率 20%
 - ・淘洗は良い
 - ・基質は中～粗粒砂からなる

- ②層
- ・シルト質砂礫主体
 - ・濃い橙色 (5YR 7/4)
 - ・径 10～70cm 程度の角～亜角石礫からなる
 - ・石礫率 15～25%
 - ・基質はシルト及び中～粗粒砂からなる
 - ・上部には石少石礫混じりシルトが分布する
 - ・主に粘土、シルト、細粒砂からなる
 - ・下部の一部には、シルト質砂礫が分布する

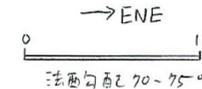
- ①層
- ・石少石礫主体 8/3
 - ・浅黄橙 (7.5YR 8/3)
 - ・径 30cm 以下の亜角石礫主体、最大径 50cm
 - ・石礫率 30～60%
 - ・淘洗は極めて悪い
 - ・上部には土層積層が見られる
 - ・基質は中～粗粒砂からなる



- S-1 セン断面
- ・②層と③層の境界を逆断層の約20cm以上変位させる。
 - ・②層中に2条の亀裂がある。
- S-2 セン断面
- ・①層と②層の境界を逆断層の約10cm変位させる。
- S-3 セン断面

- G1P
- ・花崗斑岩
 - ・浅黄橙 (7.5YR 8/4)
 - ・全体に風化を受け、一部土砂状を呈する。

作成日・確認日：2022年3月28日
 確認者：[Redacted]



D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ④

青枠：①層の色調に関する部分

149のエビデンス (4/10)

2022
作成日 3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022.3.28

No.	地層の仕状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)										スケッチ原図(基盤岩)				記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			地質名	粒度構成、礫の構成、形状、粘性、線量、調子(角分)	種の風化度	含有物(有機質、頁岩など)	その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	地層境界 -地層境界の整合、不整合体が認定できる場合は、その種類も併せて記載。	地層構造 -層理、葉理、柱状など	土質化シンド、埋積層塊、局所閉鎖など	色調示すもの	走向・傾斜 -走向構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 -その面を最も代表する箇所を指定する(うすし、局所的に凹凸や方向が変化している箇所では測定しない)。	地質名	風化・変質	割れ目、せん断割れ目 -割れ目の系統毎の割れ目間隔、割れ目自身の構造(層理・葉理・柱状)を記載。 -系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、線量などを記載。	色調	
	透黄褐色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 ① 標準20cmで、径10cm以下の遊角礫からなる。 ② 海浜は厚い。 ③ 基質は中～粗粒砂からなる。	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	にぶい褐色(5YR7/4)のシルト質砂礫を主体とする。 ① 標準15～25cmで、径10～70cm程度の角～遊角礫からなる。 ② 基質はシルト状の中～粗粒砂からなる。 ③ 上部には砂礫混じりシルトが分布する。主に粘土、シルト、細粒砂からなる。 下部の一部には、シルト質砂礫が分布する。	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	透黄褐色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 ① 標準30～60cmで、径20cm以下を主体とし最大径50cmの遊角礫からなる。 ② 海浜は極めて厚い。 ③ 上部には埋積層塊がみられる。 ④ 基質は中～粗粒砂からなる。	透黄褐色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 標準30～60cmで、径20cm以下を主体とし最大径50cmの遊角礫からなる。 海浜は極めて厚い。 上部には埋積層塊がみられる。 基質は中～粗粒砂からなる。	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	色調(透黄褐色)と色調を示す記事(埋積層塊)が重複していない。当該記事も確認し、各層(透黄褐色)が正しい。色調を示す記事の書き間違いであると判断した。
	① 花崗岩質。透黄褐色(7.5YR8/4) ② 全体に風化を受け、一部土砂状を呈する。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕部										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由			
			破砕部の性状 -破砕部の種 -破砕部の物質 -破砕部の連続性・連続性 -選別破砕部が認められる破片を主体とし、基質も破砕化した破片からなる組織の有無	内部構造 -柱状構造、埋込み構造、葉理構造、葉理構造、層状構造など	断層区分 -断層の向き・断層角・カタルーアイ(実測できる場合)に区別し記載。	破砕種 (実測できる場合)	断層活動面 (認定した場合)	条線	変位・変形量 -変位面によって計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 -その面を最も代表する箇所を指定する(うすし、局所的に凹凸や方向が変化している箇所では測定しない)。					
p-1	せん断部 ① 2層と3層の境界を近断層的にみかけ約10cm変位させる。 ② 層内で変位させる。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
p-2	せん断面 ① 2層と3層の境界を近断層的にみかけ約10cm変位させる。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
p-3	せん断面	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-

スケッチ名 D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ⑥スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか

- ・観察面の対象箇所名
- ・観察面の枠
- ・縮尺
- ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

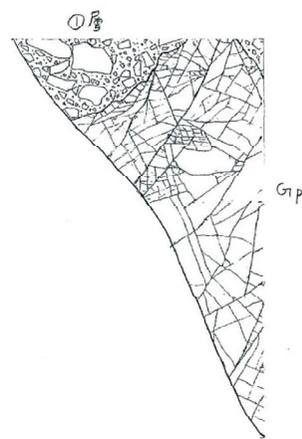
①層

- ・石少 砕粒性体 ^{8/3}
- ・浅黄橙 (7.5 YR 7/3)
- ・径 20cm以下の亜角石礫主体, 最大径 30cm
- ・石礫率 30~60%
- ・淘洗は悪い
- ・基質は中~粗粒砂が主

Gp

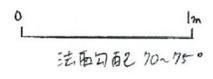
- ・風化花崗斑岩
- ・浅黄橙 (7.5 YR 7/6)

スケッチ



WSW ←

→ ENE



作成日・確認日：2022年3月28日
 確認者：[Redacted]

D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ⑥

スケッチ名 D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ⑦スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)



①層
 ・石少不稜主体 砂
 ・浅黄褐色 (7.5 YR 8/6)
 ・径 30cm 以下の重角礫主体
 最大径 40cm
 ・礫率 30~60%
 ・洞孔は極めて多い
 ・基盤は中~極粗粒砂からなる。

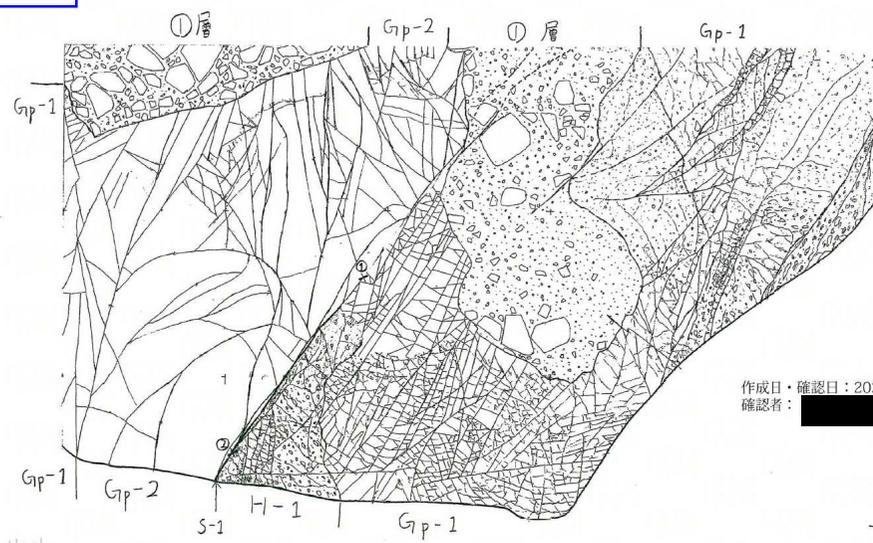
Gp-1
 ・花崗斑岩
 ・浅黄褐色 (7.5 YR 8/6)
 ・全体に風化を受け、一部土砂状を呈す。

Gp-2
 ・花崗斑岩
 ・浅黄褐色 (7.5 YR 8/6)
 ・全体に風化を受け、一部土砂状を呈す。
 ・全体的に変質している。

H-1
 ・~~カタラーサイト~~ 変質したカタラーサイト
 ・灰白色 (7.5 YR 8/2), 浅黄褐色 (7.5 YR 8/6)
 ・礫質, シルト質砂状 HJ
 ・全体に変質を受け脱色, やや軟質
 ・カタラーサイトの特徴が認められる。
 ・糸田粒部は糸田状に分布する。

・原岩組織が認められる
 岩片を主体とし基質と組織化
 した岩片からなる組織は一部で
 認められる。

スケッチ



確認日 (変質したカタラーサイト)
 2022年7月5日

作成日・確認日: 2022年3月28日
 確認者: [Redacted]

確認者: [Redacted]

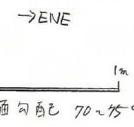
S-1 土人断面
 ・粘土
 ・灰褐色 (7.5 YR 4/2)
 ・中層 3~9cm (代表的な中層: 5cm)
 ・透孔層カウジ
 ・軟質
 ・若干湾曲が面はジューブ

Hc-1
 ・直線的
 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし
 基質と組織化した岩片からなる組織は
 認められる。

① f: N7W54W
 ・灰褐色粘土 Hc-1
 ・中層 2~6cm
 ・透孔層カウジ
 ・軟質
 ・(原岩組織 - ない)

② f: N3W61W
 ・灰褐色粘土 Hc-1
 ・中層 3~6cm
 ・透孔層カウジ
 ・軟質
 ・(原岩組織 - ない)

Hc-1
 ・直線的



D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ⑦

青枠：①層の色調に関する部分

2022
作成日 9/5 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022.9.5

No.	地層の性状に関する記事	適正化する記事内容	スケッチ原図 (素描系)																
			地質名	地層構成、種別、形状、構造、厚さ、厚さ均一性	種の風化	含有物(葉理、頁岩など)	その他、断面と異なる部分(特異的な状況等、例えば、それらについて記載)	地層境界	地層境界の整合、不整合、連続性が認められる場合、その境界も併せて記載	地層構造	産層、葉理、結晶	土質など、地層環境、時間経過を色調示すもの	走向・傾斜	断面・傾斜					
1	流質褐色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。縦径30~40cm、径30cm以下を主体とし最大径40cmの菱角礫からなる。淘洗は極めて悪い。基質は中~粗粒砂からなる。	流質褐色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。縦径30~40cm、径30cm以下を主体とし最大径40cmの菱角礫からなる。淘洗は極めて悪い。基質は中~粗粒砂からなる。	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-	記事-スケッチを削除、変更・追記した理由 色調(流質褐色)と色調を示す記事(7.5YR7/3)が整合していない。法面写真も確認。走向(流質褐色)が正しく、色調を示す記事の書き間違いであると判断した。
2	花崗閃緑岩、流質褐色(7.5YR8/4) - 全体に風化を欠け、一部土砂状を呈する。		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	○	
3	花崗閃緑岩、流質褐色(7.5YR8/4) - 全体に風化を欠け、一部土砂状を呈する。 - 全体的に変質している。		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	○	

No.	観察部に関する記事	適正化する記事内容	観察部																
			観察部の性状 (形状、厚さ)	観察部の種別	内部構造	断面区分	観察部	断面運動部 (認められた場合)	条痕	走向・傾斜 - 断面に注目して計測した走向・傾斜、色調	走向・傾斜 - その面を最も代表する箇所を測定する。あるいは、若干箇所について複数点で測定する。	記事-スケッチを削除、変更・追記した理由							
1	IN7064W 深褐色土層~6mm 断面カワジ 軟質	IN7064W 深褐色土層~6mm 断面カワジ 軟質 連続的 断面境界が認められる部分を主体とし、基質も観察化した部分からなる連続性は認められない。	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	-	○	○	観察区分と断面区分の判断関係を記載。
2	IN2061W 深褐色土層~6mm 断面カワジ 軟質	IN2061W 深褐色土層~6mm 断面カワジ 軟質 連続的 断面境界が認められる部分を主体とし、基質も観察化した部分からなる連続性は認められない。	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	-	○	○	観察区分と断面区分の判断関係を記載。
3	せん断面 花崗色(5.5YR4/2)の粘土 幅~5cm、代表的な幅 5mm 断面カワジ 軟質 若干箇所では面はシーム 珪質物を主として構成を切っており、観察部を伴う。	せん断面 花崗色(5.5YR4/2)の粘土 幅~5cm、代表的な幅 5mm 断面カワジ 軟質 連続的 断面境界が認められる部分を主体とし、基質も観察化した部分からなる連続性は認められない。 若干箇所では面はシーム 珪質物を主として構成を切っており、観察部を伴う	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	-	○	○	観察区分と断面区分の判断関係を記載。
4	カタクリサイト 灰白色(7.5YR8/2)、流質褐色(7.5YR8/4)の細-シルト質砂状物 - 全体に変質を受け、やや軟質 カタクリサイトの特徴が認められる。観察部は観察部に分ずる	灰白色(7.5YR8/2)、流質褐色(7.5YR8/4)の細-シルト質砂状物 - 全体に、変質を受け、やや軟質 断面境界が認められる部分を主体とし、基質も観察化した部分からなる連続性は一部で認められる。観察部は観察部に分ずる	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	-	○	○	観察区分と断面区分の判断関係を記載。

スケッチ原因⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ 1-1ピット北面 ①層の記載)

作成日 2022/7/5 作成者

確認日 2022.7.5 確認者

No.	スケッチ原因	報告書スケッチの記事
	<p>地層の性状に関する記事</p> <p>スケッチ原因から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>適正化すべき記事内容 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)</p> <p>追加変更した情報が正しく転記されている <input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>選定した記事内容</p> <p>スケッチ原因(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由 (スケッチ原因(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)</p>
スケッチ原因③	<p>浅黄褐色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径20cm以下を主体とし最大径40cmの垂角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中~極粗粒砂からなる。</p>	<p>浅黄褐色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径20cm以下を主体とし最大径40cmの垂角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中~極粗粒砂からなる。</p>
スケッチ原因④	<p>浅黄褐色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径30cm以下を主体とし最大径50cmの垂角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 上部では堆積構造がみられる。 基質は中~極粗粒砂からなる。</p>	<p>浅黄褐色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径30cm以下を主体とし最大径50cmの垂角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 上部では堆積構造がみられる。 基質は中~極粗粒砂からなる。</p>
スケッチ原因⑥	<p>浅黄褐色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径20cm以下を主体とし最大径30cmの垂角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中~極粗粒砂からなる。</p>	<p>浅黄褐色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径20cm以下を主体とし最大径30cmの垂角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中~極粗粒砂からなる。</p>
スケッチ原因⑦	<p>浅黄褐色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径30cm以下を主体とし最大径40cmの垂角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 基質は中~極粗粒砂からなる。</p>	<p>浅黄褐色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径30cm以下を主体とし最大径40cmの垂角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 基質は中~極粗粒砂からなる。</p>

①層: 砂礫を主体とする。浅黄褐色(7.5YR8/3)。礫率30~60%で径30cm以下(最大径50cm)の垂角礫からなる。淘汰は極めて悪い。基質は中~極粗粒砂からなる。

・礫の最大礫径は、観察面で最大となるスケッチ原因④の記載(50cm)を採用した。
・淘汰度は、①層が最も広く観察されるスケッチ④の記載(極めて悪い)を採用した。
・色調(浅黄褐色)と色調を示す記号(7.5YR7/3)が整合していない。観察面の写真を確認し、色調(浅黄褐色)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。

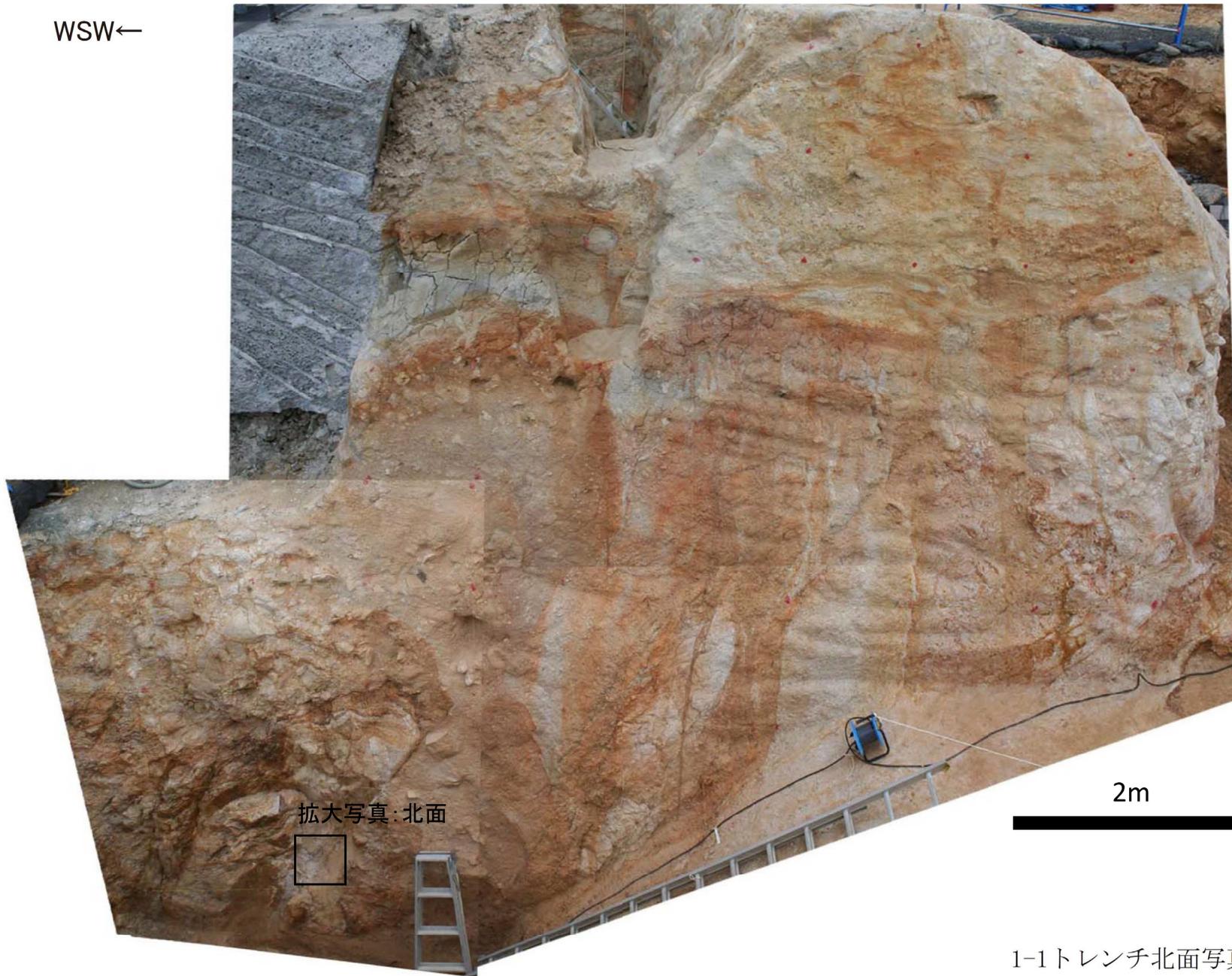
D-1トレンチ1-1ピット北面写真

149のエビデンス (10/10)

2013年6月撮影

WSW←

→ENE



拡大写真: 北面

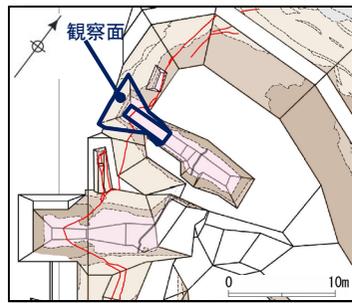
2m

1-1トレンチ北面写真

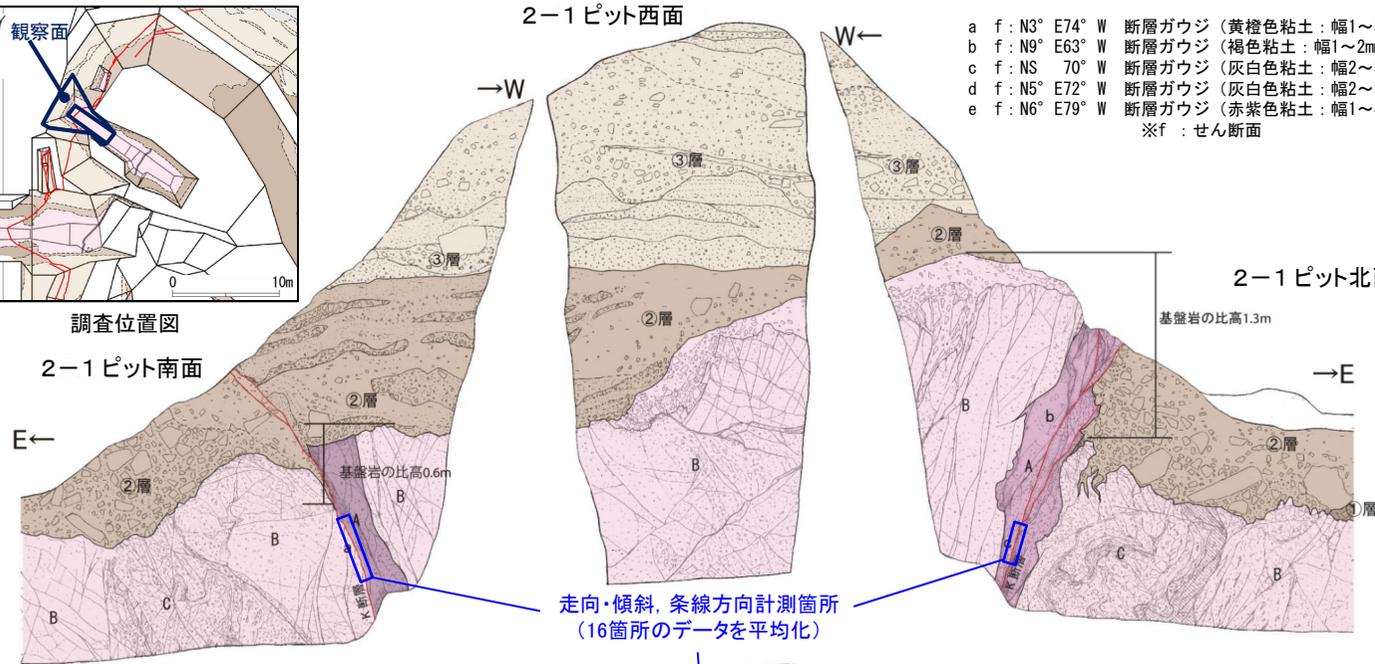
K断層の性状(2-1ピット)

150, 151 (D-1トレンチ2-1ピット)修正箇所: 橙色枠

- 2-1ピットのスケッチを以下に示す。
- 2-1ピットでは、K断層は基盤岩から堆積物(②層)までを変位させている。
- 最新活動面について複数の条線方向を統計的に整理した結果、縦ずれ成分が卓越する。また、最新活動面の薄片観察による変位センスは逆断層センスである。



調査位置図



- a f : N3° E74° W 断層ガウジ (黄橙色粘土: 幅1~3mm) 条線 (rake) = 67° R
- b f : N9° E63° W 断層ガウジ (褐色粘土: 幅1~2mm)
- c f : NS 70° W 断層ガウジ (灰白色粘土: 幅2~3mm)
- d f : N5° E72° W 断層ガウジ (灰白色粘土: 幅2~3mm)
- e f : N6° E79° W 断層ガウジ (赤紫色粘土: 幅1~4mm)
- ※f : せん断面

基盤岩 (花崗斑岩)

- A: 花崗斑岩質カクレーサイト: 砂質シルト~礫混じりシルト質砂状。やや軟質。全体的に変質を受けている。
- B: 風化花崗斑岩: 浅黄橙色 (7.5YR8/4~7.5YR8/6)。主にやや脆弱な角礫状。
- C: 花崗斑岩 (破碎質部): 黒褐色~浅黄橙色 (7.5YR3/2~7.5YR8/6)。主に砂質細礫状。部分的に砂質シルト~シルト質砂状を呈する。
- ②層: 礫混じり砂質シルト: 明褐色~明褐灰色 (7.5YR7/1~7.5YR8/6)。礫は径5cm以下の風化礫。下部ほど細粒。シルト質砂礫: 礫径50cm以下の垂魚礫を含む。
- ③層: 礫混じりシルト質細砂: 橙~浅黄橙色、灰白色 (5YR7/8~7.5YR8/2)。基質はシルト、細~中砂主体。砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体。径15cmのものも見られる。



2-1ピット底盤



※青枠, 緑枠は性状一覧表に記載したデータの計測箇所

断層ガウジ・断層角礫の幅計測箇所

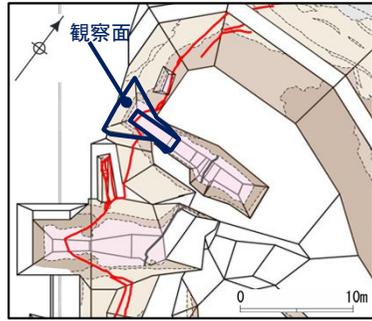
2013年4月作成

K断層の性状(2-1ピット)

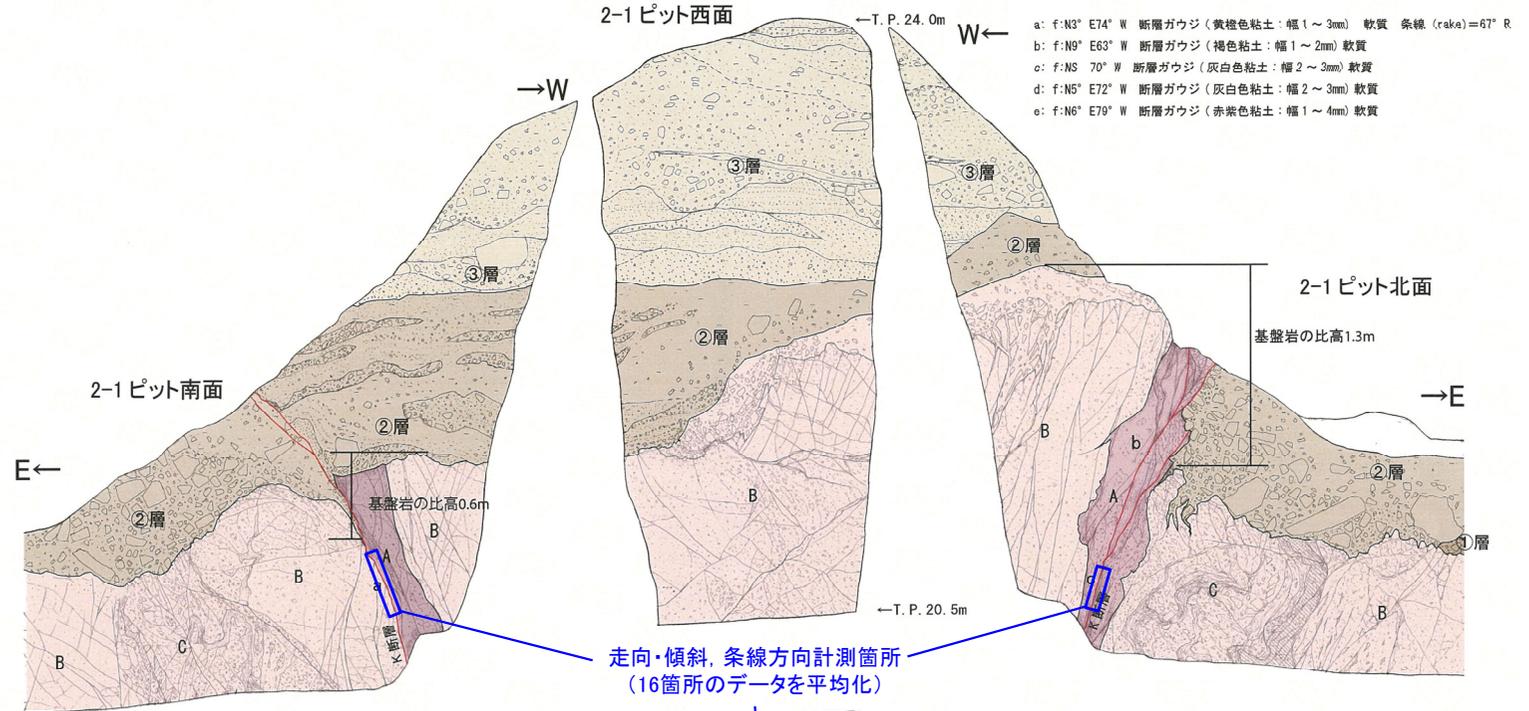
150 : ②層の色調修正
151 : ③層の色調修正

修正後

- 2-1ピットのスケッチを以下に示す。
- 2-1ピットでは, K断層は基盤岩から堆積物(②層)までを変位させている。
- 最新活動面について複数の条線方向を統計的に整理した結果, 縦ずれ成分が卓越する。また, 最新活動面の薄片観察による変位センスは逆断層センスである。



調査位置図



走向・傾斜, 条線方向計測箇所 (16箇所のデータを平均化)

基盤岩
(花崗斑岩)

- A: 花崗斑岩質の変質したカクレーサイト: 浅黄橙色~灰白色 (7.5YR8/3 ~ 7.5YR8/1)。砂質シルト~礫混じりシルト質砂状。やや軟質。全体的に変質を受けている。カクレーサイトの特徴が認められる。
- B: 風化花崗斑岩: 浅黄橙色 (7.5YR8/4 ~ 7.5YR8/6)。主にやや脆弱な角礫状。
- C: 花崗斑岩 (破砕質部): 黒褐色~浅黄橙色 (7.5YR3/2 ~ 7.5YR8/6)。主に砂質細礫状。部分的に砂質シルト~シルト質砂状を呈する。
- ②層: 礫混じり砂質シルト | 明褐色~浅黄橙色 (7.5YR7/1 ~ 7.5YR8/6)。礫は径 5cm 以下の風化礫。下部ほど細粒。シルト質砂礫: 礫径 50cm 以下の垂角礫を含む。
- ③層: 礫混じりシルト質細砂: 橙~浅黄橙色, 灰白色 (5YR7/8 ~ 7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。基質はシルト、細~中砂主体。砂礫層をレンズ状に挟み 淘洗が悪い。礫は径 5cm 以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。径 15cm のものも見られる。



2-1ピット底盤



断層ガウジ・断層角礫の幅計測箇所

※青枠, 緑枠は性状一覧表に記載したデータの計測箇所

作成日: 2022年7月5日

青枠：②層、③層の色調に関する部分

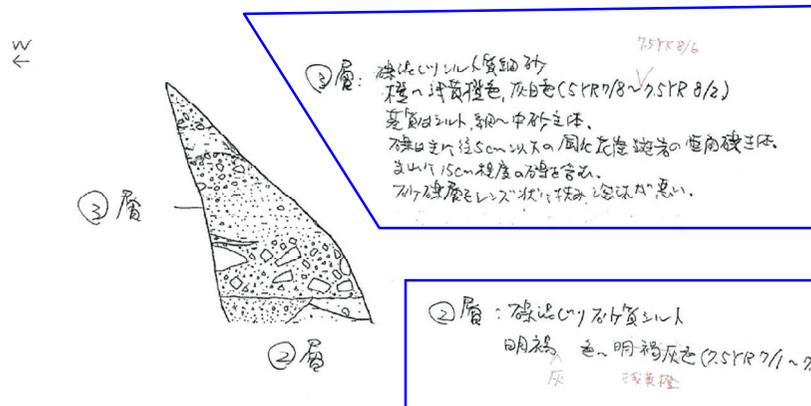
150, 151のエビデンス (3/13)

スケッチ名:D-1トレンチ 2-1ピット 1/20 北面上部(2/6) スケッチ

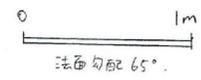
スケッチ原因に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)
 ・観察年月日、観察者

○

スケッチ



2-1ピット北面上部(3/6) 22.11.1/20



作成日・確認日: 2022年3月28日
 確認者: [Redacted]

青枠：②層，③層の色調に関する部分

2022

作成日 3/28

作成者

確認者

確認日 2022.3.28

スケッチ名: D-1トレンチ 2-1ピット 1/20 北面上部(2/6) 記事		スケッチ原因(第四系)										スケッチ原因(基礎部)				記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	地質名	地質の特徴				地層境界	埋積構造	土質化など、埋積層は、時間経過を色調とする	走向・傾斜 ・埋積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所を指定する(ただし、局所的に凹凸や方向が変化している箇所では測定しない)。	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・地盤中の高圧部の割れ目割れ目割れ目割れ目の存在物の種類と幅及び色調。系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、開き、充填などを記載。	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所を指定する(ただし、局所的に凹凸や方向が変化している箇所では測定しない)。	
				・粒度構成、埋積の種別、形状、埋積・開き、埋まり具合	・埋積の風化、含有物(有機質、頁岩など)	・その他、異部と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	・埋積境界の整合・不整合が認められる場合は、その関係も併せて記載。									
	① 埋積シルト質細砂層 層=淡黄褐色、灰白色(5YR7/8~7.5YR8/2)。 高圧なシルト、細~中砂主体。 層は主に径5mm以下の風化花崗閃緑岩の歪角礫主体。まれに15mm程度の礫を含む。 砂層層をレンズ状に挟み、薄法が薄い。	埋積シルト質細砂層 層=淡黄褐色、灰白色(5YR7/8~7.5YR8/2)。 高圧なシルト、細~中砂主体。 層は主に径5mm以下の風化花崗閃緑岩の歪角礫主体。まれに15mm程度の礫を含む。 砂層層をレンズ状に挟み、薄法が薄い。	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	色調の記号を追加
	② 埋積シリ砂質シルト層 明褐色~明褐色(7.5YR7/1~7.5YR8/6)。	埋積シリ砂質シルト層 明褐色~淡黄褐色(7.5YR7/1~7.5YR8/6)。	○	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	色調(明褐色~明褐色)と色調を修正(7.5YR7/1~7.5YR8/6)が不一致であったため、数値等を確認して色調の記載を修正した。
No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕部													記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			破砕部の性状 ・埋積部の層 ・破砕部内物質 ・破砕 ・破砕部の連続性・連続性 ・埋積層が認められる前片を主体とし、基質を細粒化した前片からなる区層の有無	内部構造 ・埋積構造、埋合面構造、実層構造、網目状、粘土など	埋積面凹凸 ・新層がウジ・新層角礫・カクレーサイトに区分し記載	破砕種 (実測できる場合)	最新活動面 (認定した場合)	条線	変位・変形量 ・露頭面によって計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所を指定する。あるいは、主せん断面について複数箇所を測定する。					
-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

スケッチ名:D-1トレンチ 2-1ピット 1/20 南面下部(3/6) スケッチ

スケッチ原因に以下の情報が書かれているか

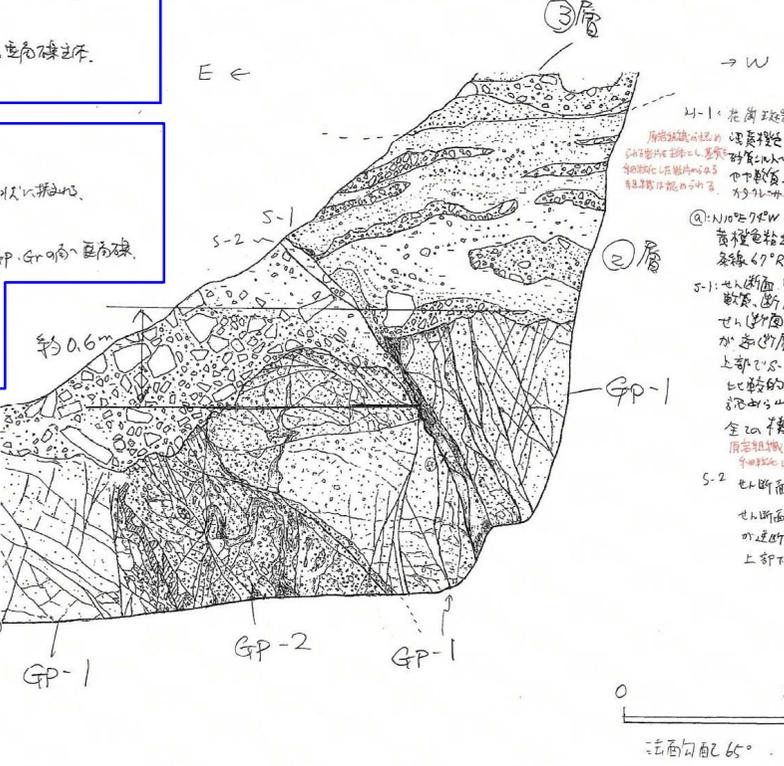
- 観察面の対象箇所名
- 観察面の枠
- 縮尺
- 方位、スケール(または、グリッドの間隔)
- 観察年月日、観察者

スケッチ

③層: 礫混じりシルト質細砂
 橙～浅黄橙色, 灰白色 (SYR 7/8 ~ 7.5YR 8/6)
 基質はシルト, 細中砂主体.
 石塊は径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体.
 砂礫層を挟み, 毎10cm刻み.

②層: 礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫.
 シルト質砂礫は主に東側の1/2分厚.
 西側のシルト質砂礫は礫混じり砂質シルト質中砂層に挟み込まれる.
 明褐色～明褐色 (7.5YR 7/1 ~ 7.5YR 8/6)
 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の角礫.
 石塊下部には細粒状砂を含む厚さ2cmの
 一時的堆積層が見える.
 基質は主にシルト質中砂.
 シルト質砂礫の礫は主に径50cm以下の
 風化花崗斑岩の角礫を主体とし,
 含量50~60%.
 基質はシルト質中砂.

GP-1: 風化花崗斑岩
 浅黄橙色 (7.5YR 8/4 ~ 7.5YR 8/6)
 主に中砂状の角礫状.
 GP-2: 花崗斑岩 (礫層部分)
 黒褐色～浅黄橙色 (6.5YR 3/2 ~ 7.5YR 8/6)
 主に中砂質細礫状.
 部分的に砂質シルト～シルト質砂状を
 含む.



→ W
 の変化した
 M-1: 花崗斑岩質カクワレサマ H₁
 層状構造～厚さ (SYR 8/5 ~ 8.5YR 8/1)
 砂質シルト質のシルト質砂状 厚さ約10cm
 中砂質, 基質はシルト質を伴っている.
 下部にはシルト質の堆積が見える.
 ②: N10°E 7°W 断面から見た層状構造の連続性
 黄褐色粘土, 厚さ 約10cm, 砂質シルト質
 層状構造
 S-1: セル断面 厚さ約10cmの黄褐色の連続した
 数層, 断面が約10cm
 セル断面 S-1, S-2 に対し, 基盤の上層
 が 2層層を成していることが確認できる.
 上部はシルト質を伴っている.
 セル断面の下部は, 厚さ約
 10cm 程度を切り, 粗粒部を伴う.
 断面構造の連続性や, 厚さ約10cmの
 層状構造の連続性が見える.
 S-2
 セル断面 S-1, S-2 に對し, 基盤の上層
 の2層層を成していることが確認できる.
 上部はシルト質を伴っている.

2-1ピット南面下部(3/6) 24.11.1/20

作成日・確認日: 2022年3月28日

確認者: [Redacted]

確認日(復検): 2022年7月5日

確認者: [Redacted]

青枠：③層の色調に関する部分

2022
作成日 3/28

作成者

確認者

確認日 2022.3.28

スケッチ名: D-11-レンテ 2-1ピット 1/20 南面上部(4.6) 記事		スケッチ原図(第四系)										スケッチ原図(基盤岩)										
No	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	地質の特徴										スケッチ原図(基盤岩)									
			地質名	組成構成 ・細粒構成 ・塊状・層状・層状・塊状・層状・塊状	色の風化 ・赤褐色 ・黄褐色	含有物(有機質、炭酸など)	その他、層間と異なる状況や特徴的な状況があれば、それぞれについて記載	地層境界 ・地層境界の整合・不整合 ・地層境界の連続性	連続構造 ・層状構造 ・塊状構造	土壌化など、地層 ・土壌化など、地層	走向・傾斜 ・走向・傾斜 ・走向・傾斜	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由										
③層	褐色シルト質細砂 層→淡黄褐色、灰白色 (SYR7/8~7SYR8/2)。 基質はシルト、細一中砂主体、塊状が強い。 シルト質砂層を挟む。 塊は径2~5cmの風化花崗閃石の五角柱主体、まれに15cm(最大35cm)程度の塊を含む。	褐色シルト質細砂 層→淡黄褐色、灰白色 (SYR7/8~7SYR8/2)。 基質はシルト、細一中砂主体、塊状が強い。 シルト質砂層を挟む。 塊は径2~5cmの風化花崗閃石の五角柱主体、まれに15cm(最大35cm)程度の塊を含む。	○	○	○	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	色調の記号を追加					
No	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯										破砕帯									
			破砕部の性状 ・破砕部の種 ・破砕部の性質 ・破砕部の連続性 ・破砕部の連続性 ・破砕部の連続性 ・破砕部の連続性	内部構造 ・塊状構造 ・層状構造 ・層状構造 ・層状構造	断層帯区分 ・断層帯区分 ・断層帯区分 ・断層帯区分	破砕帯 ・破砕帯 ・破砕帯 ・破砕帯	露新活動面 (露出した場合)	条線	変位・変形量 ・変位・変形量 ・変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・走向・傾斜 ・走向・傾斜	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由										

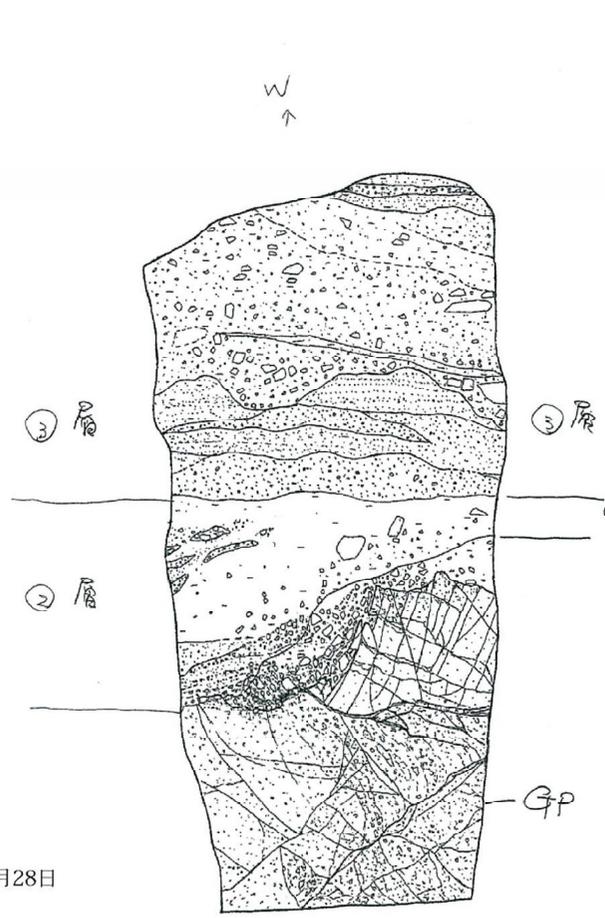
青枠：②層，③層の色調に関する部分

150, 151のエビデンス (9/13)

スケッチ名：D-1トレンチ 2-1ピット正面壁面 1/20 正面壁面(6/6) スケッチ

スケッチ原因に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)
 ・観察年月日、観察者

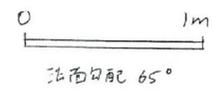
スケッチ



③層
 礫は10cm以下の細砂、
 塊状黄褐色、灰白色(SYR 7/8 ~ 2SYR 8/2).
 基質はシルト、細中砂主体。シルト層、砂層を
 レジメ状に挟み、交互に薄い。
 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体。
 基質は径15cm程度の白色角礫が主。
 断面が明瞭だと見られる。

②層
 礫は10cm以下のシルト質砂礫
 シルト質砂礫は主に下部に存在。
 上部は礫混じり砂質シルト主体。
 明褐色、明石灰色(2SYR 7/1 ~ 2SYR 8/6)
 礫は10cm以下の風化花崗斑岩の
 Lf GP・Graの亜角礫
 一部塊状構造が見える。
 シルト質砂礫の礫は主に径30cm以下の
 風化Lf GP・Gra 亜角礫を主体。
 砕率約60%。
 断面が砂質シルトに見える

GP
 風化花崗斑岩
 塊状構造(2SYR 8/4 ~ 2SYR 8/6)
 主に脆弱な角礫状、7R・7Y・4X。
 断面が明瞭。



2-1ピット正面壁面 1/20

作成日・確認日：2022年3月28日
 確認者：[Redacted]

スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ 2-1ピット ②層の記載)

作成日 2022 7/5 作成者 [redacted] 確認日 2022 7.5 確認者 [redacted]

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事		スケッチ原図(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由(スケッチ原図(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか? <input type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されている <input type="checkbox"/>	選定した記事内容		
スケッチ原図(北面下部)	<p>礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 主に上部が礫混じり砂質シルトからなる。 明褐色～明褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫は径5cm以下の風化したGp・Grの亜角礫。 下部はシルト質砂礫からなる。 明褐色～明褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫率50～60% 礫は主に径50cm以下の風化したGp・Gr亜角礫が多い。 基質は砂質シルトからなる。</p>	<p>礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 主に上部が礫混じり砂質シルトからなる。 明褐色～淡黄褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫は径5cm以下の風化したGp・Grの亜角礫。 下部はシルト質砂礫からなる。 明褐色～淡黄褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫率50～60% 礫は主に径50cm以下の風化したGp・Gr亜角礫が多い。 基質は砂質シルトからなる。</p>			
スケッチ原図(北面上部)	<p>礫混じり砂質シルト 明褐色～明褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6)。</p>	<p>礫混じり砂質シルト 明褐色～淡黄褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6)。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 北面上部の記事は観察面が狭いため不採用とした。 シルト質砂礫の礫径は、②層の観察面が広い北面下部の記事(50cm以下)を採用した。 礫の形状はスケッチ原図(北面下部、正面壁面)で記載されている亜角礫を代表的な形状とした。 色調(明褐色～明褐色)と色調を表す記号(7.5YR7/1～7.5YR8/6)が不一致であったため、観察面写真を確認して色調の記事を修正した。
スケッチ原図(南面下部)	<p>礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に東側に分布する。 西側のシルト質砂礫は礫混じり砂質シルト中に層状に含まれる。 明褐色～明褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫。 礫は下部ほど細粒だが、含有量は多くなる。 一部に堆積構造が見える。 基質は主にシルト質中粒砂。 シルト質砂礫の礫は主に径50cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫を含む。 礫率50～60% 基質は砂質シルトからなる。</p>	<p>礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に東側に分布する。 西側のシルト質砂礫は礫混じり砂質シルト中に層状に含まれる。 明褐色～淡黄褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫。 礫は下部ほど細粒だが、含有量は多くなる。 一部に堆積構造が見える。 基質は主にシルト質中粒砂。 シルト質砂礫の礫は主に径50cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫を含む。 礫率50～60% 基質は砂質シルトからなる。</p>	<p>②層: 礫混じり砂質シルト: 明褐色～淡黄褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6)。礫は径5cm以下の風化礫。下部ほど細粒。 シルト質砂礫: 礫径50cm以下の亜角礫を含む。</p>		
スケッチ原図(正面壁面)	<p>礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に下部に分布。上部は礫混じり砂質シルトが主体。 明褐色～明褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの亜角礫。 一部に堆積構造が見える。 シルト質砂礫の礫は主に径30cm以下の風化したGp・Grの亜角礫を含む。 礫率15～60% 基質は砂質シルトからなる。</p>	<p>礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に下部に分布。上部は礫混じり砂質シルトが主体。 明褐色～淡黄褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの亜角礫。 一部に堆積構造が見える。 シルト質砂礫の礫は主に径30cm以下の風化したGp・Grの亜角礫を含む。 礫率15～60% 基質は砂質シルトからなる。</p>			

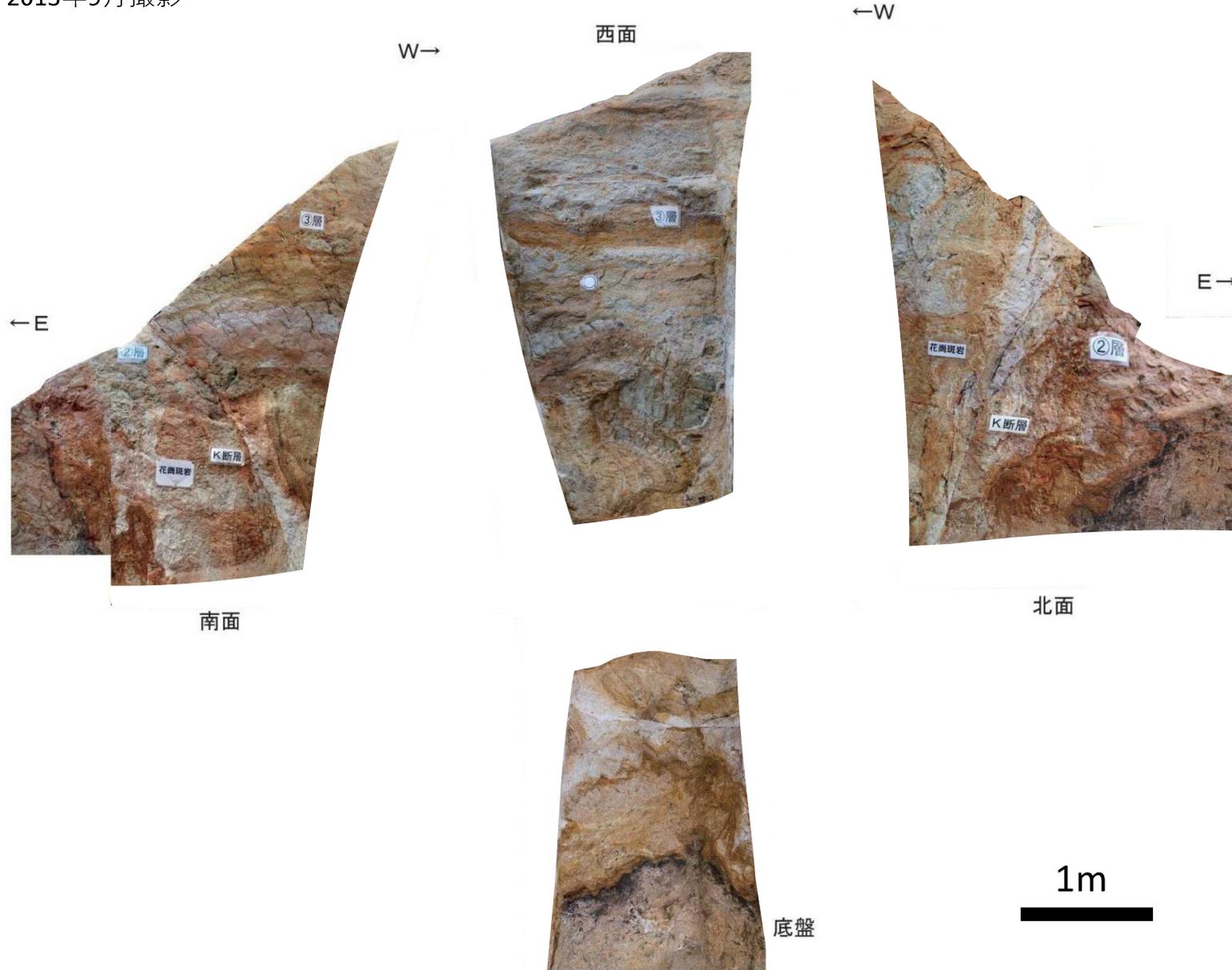
スケッチ原因⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ 2-1ピット_③層の記載)

No.	スケッチ原因		報告書スケッチの記事	スケッチ原因(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由(スケッチ原因(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	選定した記事内容	
	スケッチ原因から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	追加変更した情報が正しく転記されている <input checked="" type="checkbox"/>		
スケッチ原因 (北面下部)	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。		
スケッチ原因 (北面上部)	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。 礫は主に径5cm以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。まれに15cm程度の礫を含む。 砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。 礫は主に径5cm以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。まれに15cm程度の礫を含む。 砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。		
スケッチ原因 (南面下部)	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。 砂礫層を挟み、淘汰が悪い。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。 砂礫層を挟み、淘汰が悪い。	礫混じりシルト質細砂、橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。基質はシルト、細～中砂主体。砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。礫は径5cm以下の風化花崗岩の垂角礫主体。径15cmのものもみられる。	・シルト層、シルト質砂層の挟みは局所的なもののため不採用とした。 ・礫径の最大礫35cmは局所的な性状のため記載しない。 ・色調(浅黄橙色)の記号を追加した。
スケッチ原因 (南面上部)	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。淘汰が悪い。 シルト質砂層を挟む。 礫は径2～5cmの風化花崗斑岩の垂角礫主体。まれに15cm(最大35cm)程度の礫を含む。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。淘汰が悪い。 シルト質砂層を挟む。 礫は径2～5cmの風化花崗斑岩の垂角礫主体。まれに15cm(最大35cm)程度の礫を含む。		
スケッチ原因 (正面壁面)	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。シルト層、砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。まれに径15cm程度のものも見られる。 ラミナが明瞭なところあり。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。シルト層、砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。まれに径15cm程度のものも見られる。 ラミナが明瞭なところあり。		

D-1トレンチ2-1ピット全体写真

150, 151のエビデンス (13/13)

2013年9月撮影

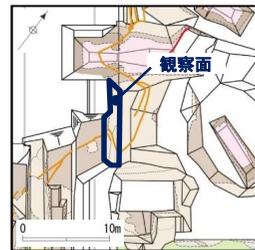
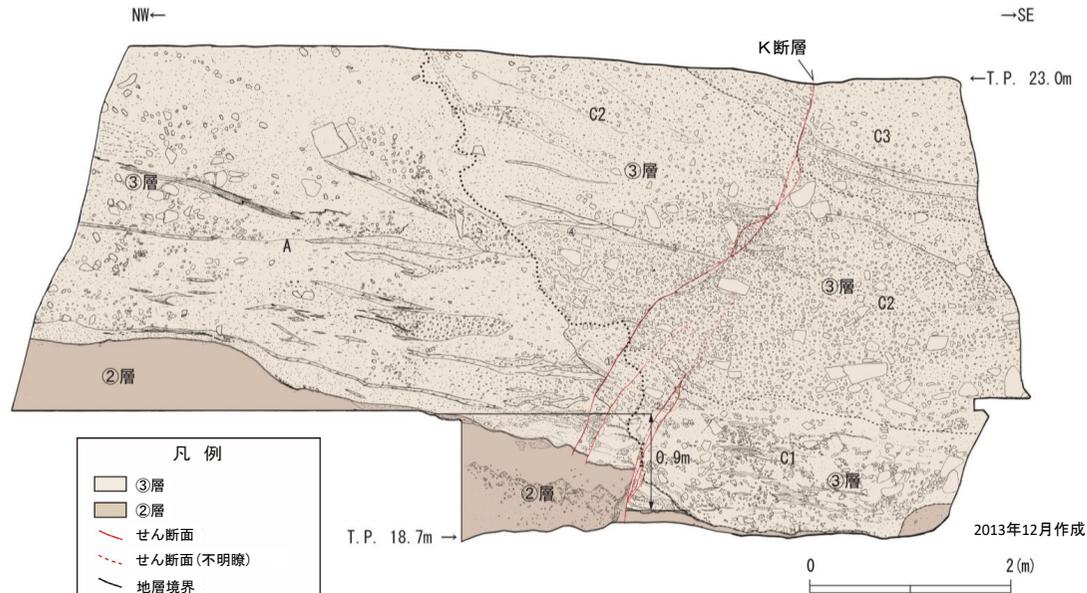
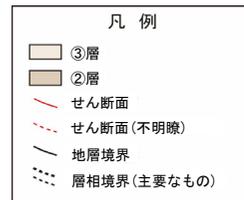


余白

K断層の性状(擁壁撤去法面)

- ②層：礫混じりシルト質砂：褐灰色～浅黄橙色 (7.5YR6/1～10YR8/4)
基質はシルト、細～中粒砂であり、礫は径100mm以下の角～亜角礫主体である。全体的にやや軟質で北西側ほど硬質となる。
②層上限面の傾斜は、K断層の上盤側で10°程度で、下盤側でほぼ水平を示す。
- ③層
A層：礫・シルト混じり砂：浅橙色～浅黄橙色 (5YR8/3～10YR8/3)
礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～亜角礫主体である。
基質は細～粗粒砂主体であり、レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。
- C1層：砂礫：明黄褐色～にぶい橙色 (10YR6/6～7.5YR7/3)
礫率30～60%であり、レンズ状に砂層を挟む。
礫混じり砂質シルト：淡赤橙色～灰白色 (2.5YR7/3～7.5YR8/1)
基質は細～中粒砂であり、淘汰はやや良い。
礫は径40mm以下の風化を受けた亜角～亜円礫主体である。
- C2層：砂礫：にぶい橙色～明黄褐色 (7.5YR7/3～10YR6/6)
礫率30～60%であり、淘汰はきわめて悪い。
礫は径200mm以下の風化を受けた角～亜角礫主体である。
基質は中～粗粒砂であり、レンズ状に中～粗粒砂の砂層を含む。
- C3層：礫質砂：にぶい橙色～浅黄橙色 (5YR6/4～7.5YR8/3)
礫は径100mm以下の風化を受けた亜角～亜円礫主体である。
基質は中～粗粒砂で、淘汰はやや悪い。

- ① f : N26° E57° W
② f : N19° E48° W
③ b : N66° E14° S
④ b : N6° E12° E
f : せん断面
b : 層理面



- D-1トレンチ擁壁撤去法面では、②層、③層を逆断層センスで変位させるK断層が認められる。
- ②層上面の鉛直変位量は、撓曲変形を含めて約0.9mである。

K断層の性状(擁壁撤去法面)

152 : ③層A層の色調修正

- D-1トレンチ擁壁撤去法面では, ②層, ③層を逆断層センスで変位させるK断層が認められる。
- ②層上面の鉛直変位量は, 撓曲変形を含めて約0.9mである。

②層: 礫混じりシルト質砂: 褐灰色~淡黄褐色 (7.5YR6/1 ~ 10YR8/4)
 基質はシルト, 細~中粒砂であり, 礫は径 100mm 以下の角~歪角礫主体である。全体的にやや軟質で北西側ほど硬質となる。
 ②層上面の傾斜は, K断層の上盤側で 10° 程度で, 下盤側でほぼ水平を示す。

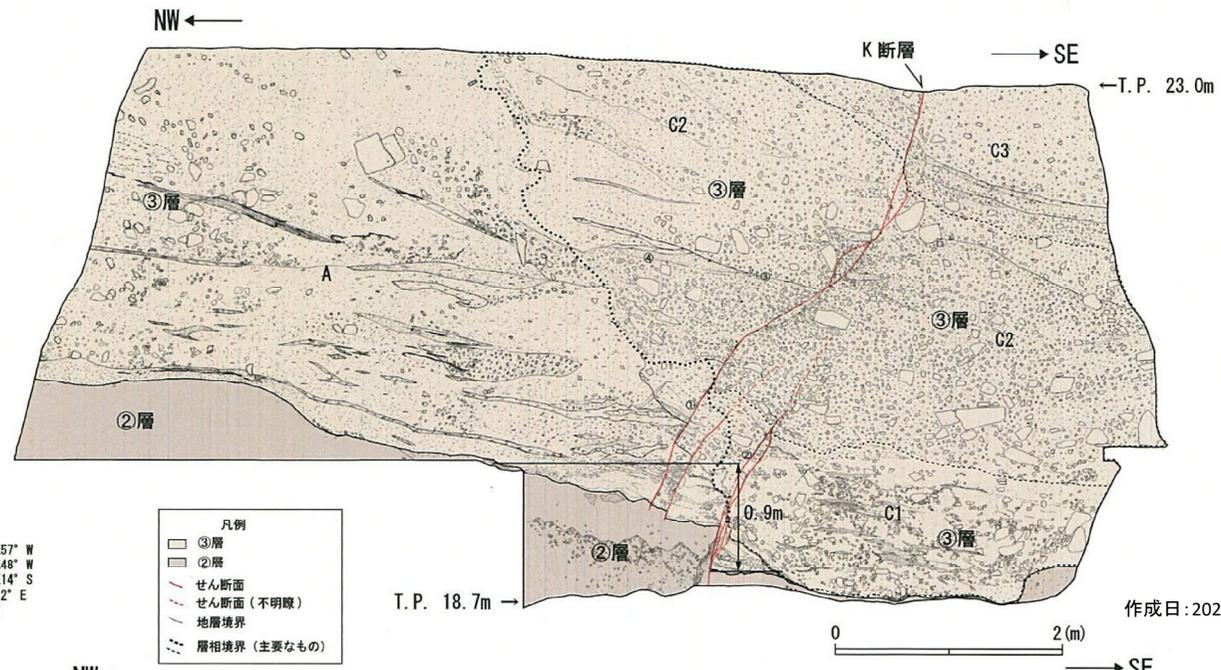
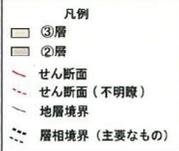
③層
 A層: 礫・シルト混じり砂: 淡橙色~淡黄褐色 (5YR8/3 ~ 10YR8/3)
 礫は径 20mm 以下の風化を受けた歪角~歪円礫主体である。
 基質は細~粗粒砂主体であり, レンズ状のシルト~シルト質砂を含む。

C1層: 砂礫: 明黄褐色~にぶい橙色 (10YR6/6 ~ 7.5YR7/3)
 礫率 30 ~ 60% であり, レンズ状に砂層を挟む。
 礫は計 200mm 以下の風化を受けた歪角~歪円礫主体である。
 礫混じり砂質シルト: 淡赤褐色~灰白色 (2.5YR7/3 ~ 7.5Y8/1)
 基質は細~中粒砂であり, 淘汰はやや良い。
 礫は径 40mm 以下の風化を受けた歪角~歪円礫主体である。

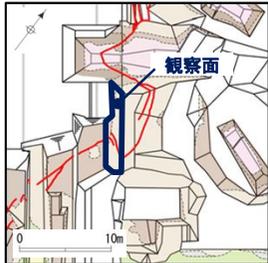
C2層: 砂礫: にぶい橙色~明黄褐色 (7.5YR7/3 ~ 10YR6/6)
 礫率 30 ~ 60% であり, 淘汰はきわめて悪い。
 礫は径 200mm 以下の風化を受けた角~歪角礫主体である。
 基質は中~粗粒砂であり, レンズ状に中~粗粒砂の砂層を含む。

C3層: 礫質砂: にぶい橙色~淡黄褐色 (5YR6/4 ~ 7.5YR8/3)
 礫は径 100mm 以下の風化を受けた歪角~歪円礫主体である。
 基質は中~粗粒砂で, 淘汰はやや悪い。

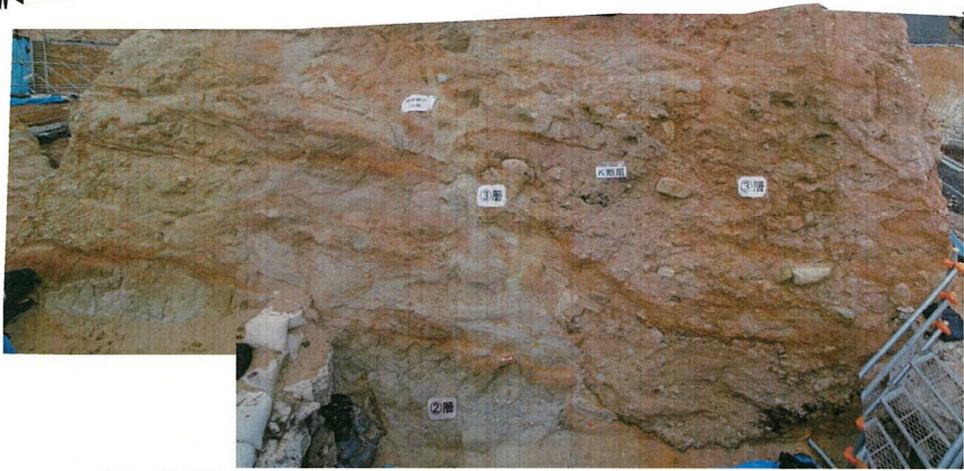
- ①: f: N26° E57° W
- ②: f: N19° E48° W
- ③: b: N66° E14° S
- ④: b: N6° E12° E
- f: せん断面
- b: 層理面



作成日: 2022年3月31日



調査位置図



T.P. 18.7m

撮影: 2013年12月

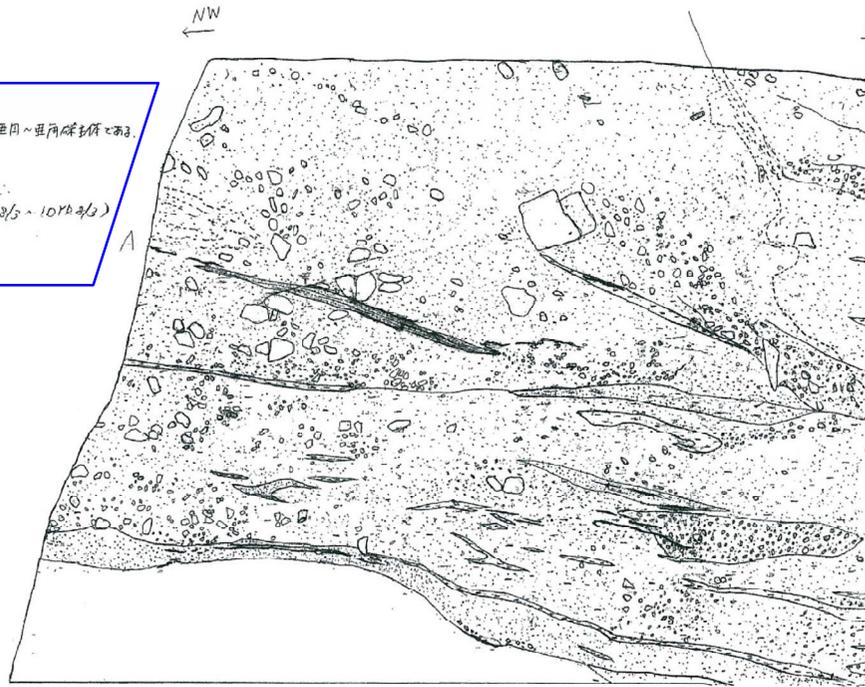
スケッチ名:D-1トレンチ 擁壁撤去① 1/20 スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
・観察面の対象箇所名
・観察面の枠
・縮尺
・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

スケッチ

A: 石灰・シルト混じり砂
礫は径20mm以下の風化を受けた亜角礫を伴う。
基質は細～粗粒の主相。締り。
シルト状のシルト～シルト質砂を含む。
塊状色へ浅黄褐色 (5YR 8/5 ~ 10YR 6/5)
淡褐色



C2
C2: 砂礫
礫径30~40cm 淘汰は約10%
石灰は石膏礫石の角～亜角礫を伴う。
径30~100mmの風化石灰。
よく締り。
基質は中～粗粒の砂、締り。
シルト状の中～粗粒砂の砂層を伴う。
褐色～明黄褐色
(7.5YR 7/5 ~ 10YR 6/5)
下位のA層を削り取った色調
していることが、不整合面
を示すと考えられる

②層: 礫混じりシルト質砂
基質はシルト、細～中粒砂
よく締り、やや軟質。北西側ほど硬質化する。
②層上限面の傾斜角、北西側では約10°、水平だが
南東に向かうにつれて約10°程度低くなる。
褐色 (7.5YR 6/1)

作成日・確認日: 2022年3月28日
確認者: [Redacted]

D-1トレンチ 擁壁撤去① 1/20

スケッチ名:D-1トレンチ 擁壁撤去② 1/20 スケッチ

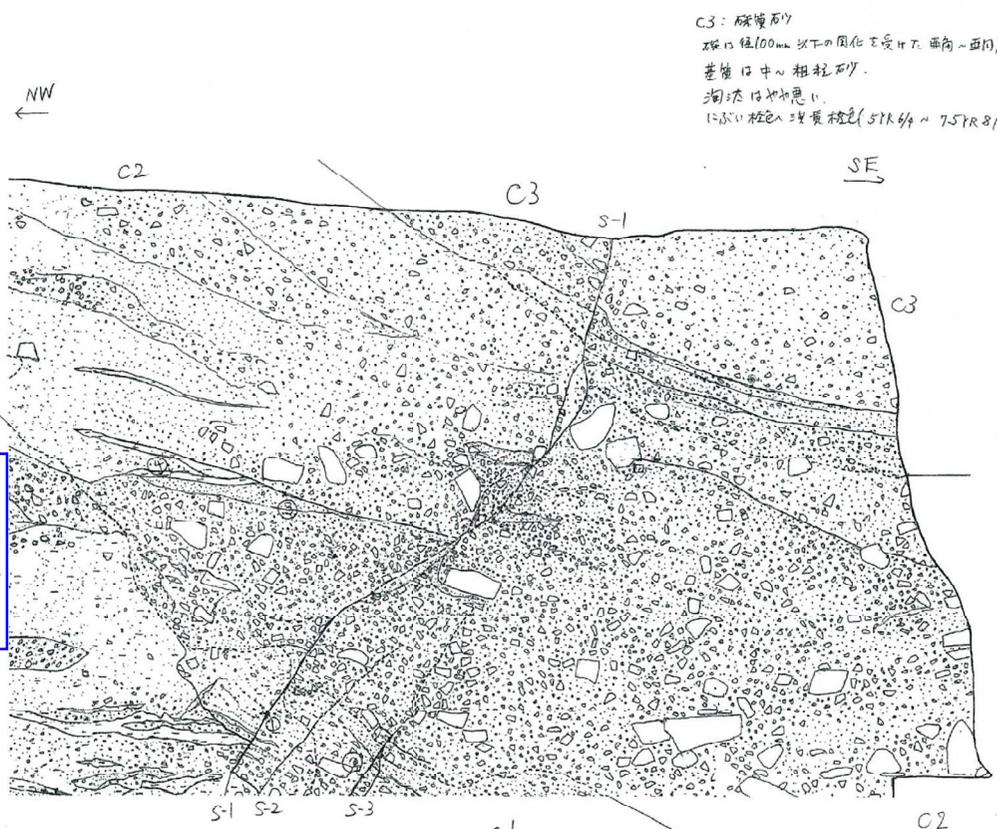
スケッチ原図に以下の情報が書かれているか

- 観察面の対象箇所名
- 観察面の枠
- 縮尺
- 方位、スケール(または、グリッドの間隔)



スケッチ

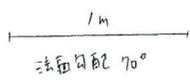
- 方位、傾斜角
- ① f: N33E57W
 - ② f: N26E48W
 - ③ b: N73E14S
 - ④ b: N13E12E



A: 石灰・シルト混じり砂.
 石灰は径20mm以下の風化を
 受けた粗骨～亜角礫主体の砂.
 粘土は粗～粗粒砂主体.
 シルトはシルト～シルト質砂混じり.
 淡褐色～淡黄褐色
 (5YR6/3 ~ 10YR6/3)

C3: 礫質砂
 礫は径100mm以下の風化を受けた、亜角～亜円礫主体である。
 基質は中～粗粒砂。
 濁状はやや悪い。
 にぶい棕色～黄褐色(5YR6/3 ~ 7.5YR6/3)

C2: 砂礫
 礫径30～60mmあり。
 濁状はきわめて悪い。
 礫は200mm以下の風化を受けた
 角～亜角礫主体である。
 基質は中～粗粒砂。
 シルトに中～粗粒砂の礫石を
 含む。
 一部弱い葉理が認められる。
 下部のA層と、同じ大きさで
 堆積していることが、不整合
 関係であると考えられる。
 にぶい棕色～黄褐色
 (7.5YR6/3 ~ 10YR6/3)



- S-1: せん断面
最も詳細な部分
- S-2: せん断面
一部不明瞭
- S-3: せん断面
一部不明瞭

C1: 石灰混じり砂質シルト
 基質は細～中粒砂であり、一部シルト混じり。
 濁状はやや悪い。
 多量堆積あり。
 石灰は花崗岩、花崗斑岩で径40mm以下の風化を
 受けた亜角～亜円礫主体。 淡褐色(5YR6/3)

D-1 H-24 擁壁撤去② 1/20

作成日・確認日: 2022年3月28日 確認者: [Redacted]

スケッチ名：D-1トレンチ 擁壁撤去③ 1/20 スケッチ

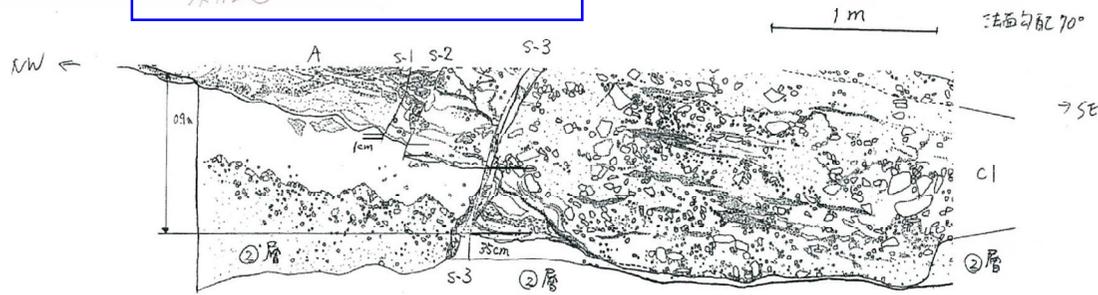
スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

スケッチ

A: 礫・シルト質砂
 礫は径20mm以下の風化岩質4次亜角~亜角礫主体である。
 基質は細~粗粒砂主体。砂質。
 シス状のシルト・シルト質砂を含む。
 ~一部は埋積構造が認められる。
 淡褐色~淡黄褐色(5YR8/3~10YR8/3)
 淡棕色

C1: 砂礫~礫混じり砂質シルト
 礫率30~60%。シス状の砂層には所々の発達した泥質シルト。
 礫は径40mm以下の風化岩質4次亜角~亜角礫主体である。
 砂礫の基質は中~粗粒砂、やや砂質。
 下部は砂質主体、上部は礫混じり砂質シルト主体である。
 明黄褐色~灰白色(10YR6/6~7.5YR7/3)
 淡赤褐色~灰白色(2.5YR7/3~7.5YR6/1)



②層: 礫混じりシルト質砂
 基質は細~中粒砂。
 やや砂質、やや軟質。
 礫は径100mm以下の角~亜角礫主体である。
 褐灰色~淡黄褐色(7.5YR6/1~10YR8/4)
 ②層上限面の傾斜はセム断面の上壁傾斜の
 10°程度、下部は傾斜がほぼ水平を示す。

S-1: セム断面
 ②層上面が逆断層面による約10cm変位
 S-2: セム断面
 ②層上面が逆断層面による約6cm変位
 S-3: セム断面
 ②層上面が逆断層面による約35cm変位。

擁壁撤去 ③ 1/20

作成日・確認日：2022年3月28日
 確認者：[Redacted]

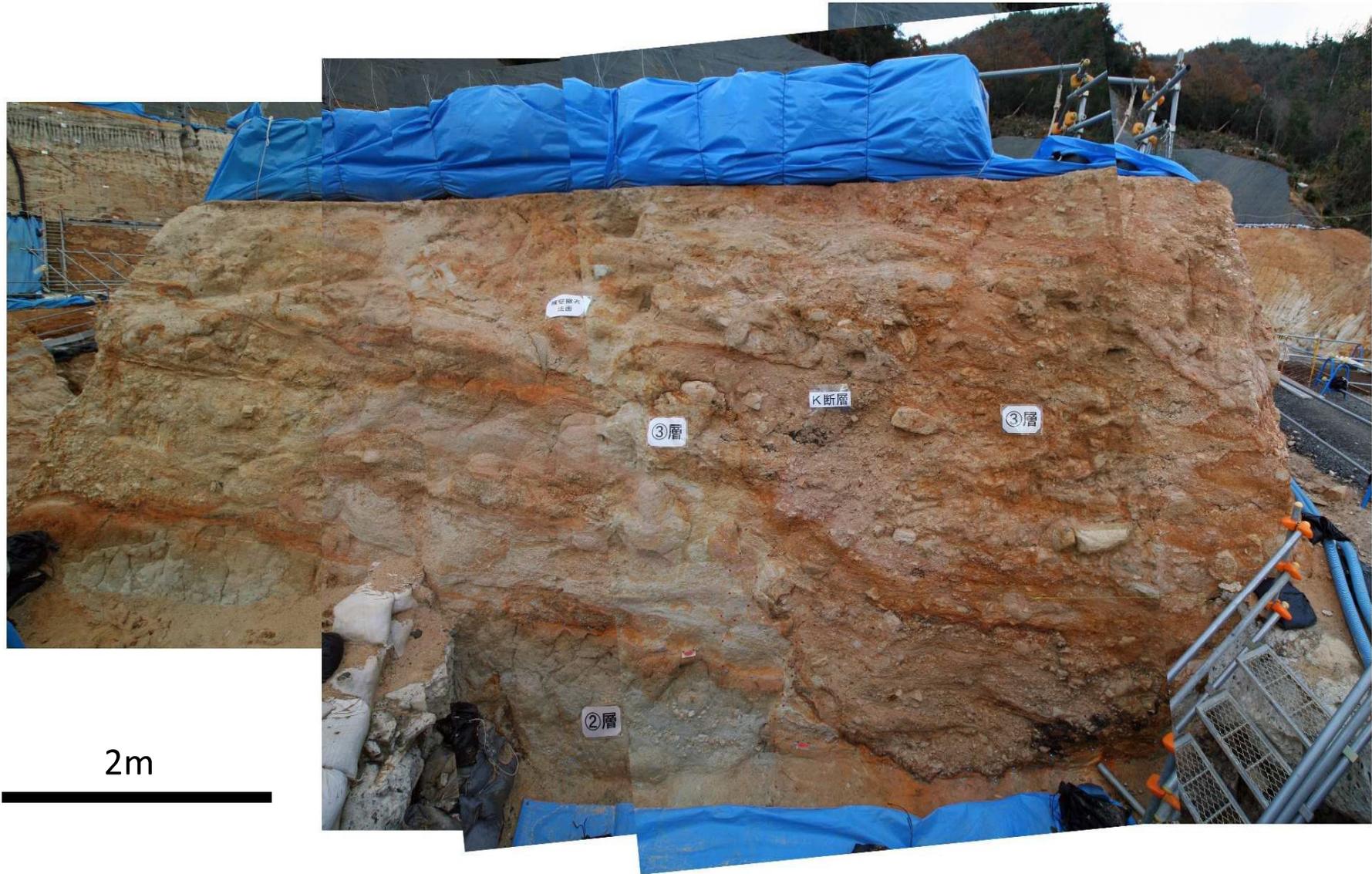
スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ 擁壁撤去法面_③A層の記載)

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	スケッチ原図(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由(スケッチ原図(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	選定した記事内容	
スケッチ原図①	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締る。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 浅橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締る。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 淡橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)		
スケッチ原図②	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 浅橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 淡橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	礫・シルト混じり砂: 淡橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3) 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体であり、レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。	・色調(浅橙色)と色調を示す記号(5YR8/3)が整合していない。観察面写真を確認し、色調を示す記号(5YR8/3)が正しく、色調の書き間違いであると判断した。
スケッチ原図③	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締る。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 一部で堆積構造が発達する。 浅橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締る。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 一部で堆積構造が発達する。 淡橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)		

D-1 トレンチ擁壁撤去法面写真

152のエビデンス (8/8)

2013年12月撮影



K断層の連続性評価について

K断層の性状(原電道路ピット/ふげん道路ピット)

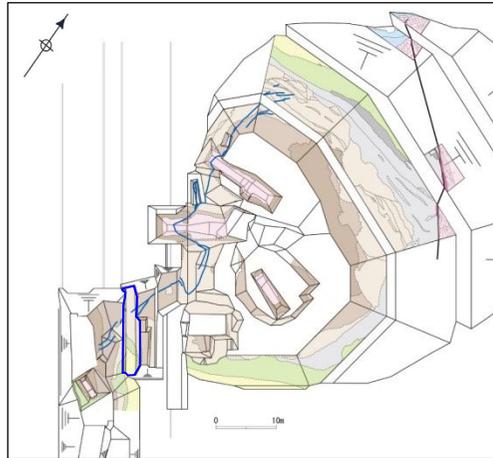
153 (原電道路ピット/ふげん道路ピット)

修正箇所：橙色枠

修正前

第536回審査会合
資料2 修正

- 原電道路ピット東向き法面部では、K断層は②層及びC層(③層)までの地層に変位を与えているが、その上位の地層であるD3層(③層)は変位・変形を受けておらず、下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- ふげん道路ピット東法面(上段)では、C層までの地層に変位・変形を与えているが、その直上に分布するD3層の基底には、原電道路ピット東向き法面部と同様、K断層による変位・変形は及んでおらず、D3層は下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- これらのことから、原電道路ピット及びふげん道路ピットにおいて、K断層はMIS6以前に堆積したD3層に変位・変形を与えていない。

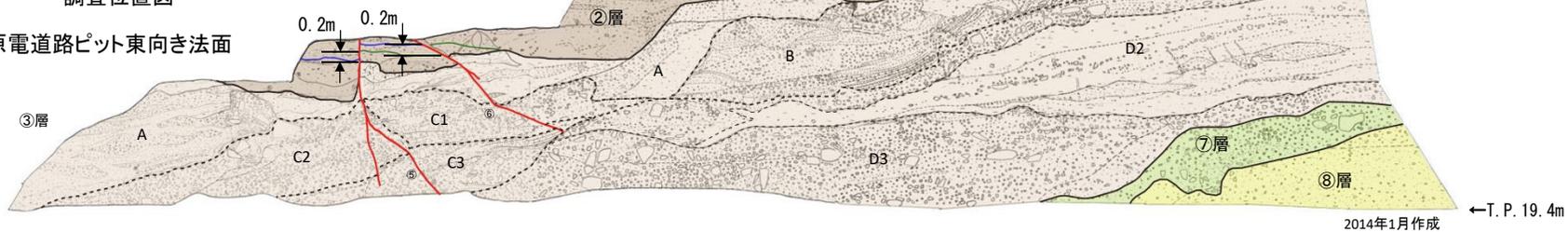


調査位置図

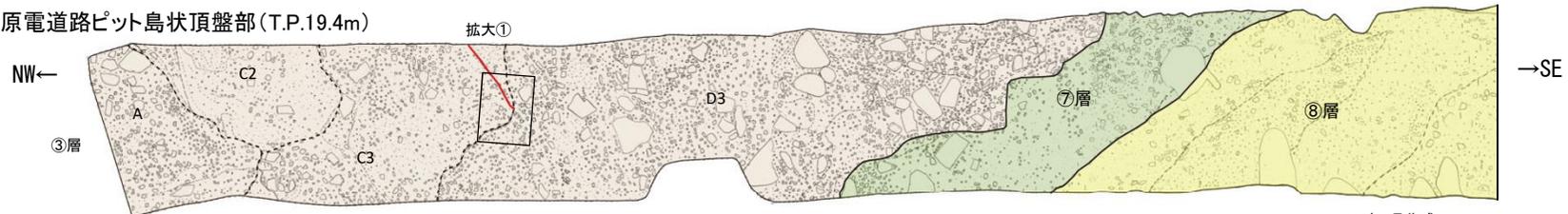
- ⑧層：細礫・シルト混じり砂を主体とする。橙色(5Y6/6)。礫率5~10%で、礫は径2~4cm程度の垂角礫を含む。基質は、シルト質細砂からなり、細礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土及び砂質シルトをレンズ状~層状に挟む。
- ⑦層：礫混じり砂質シルト~砂礫からなる。明赤褐色~橙色(5YR5/6~7.5YR7/6)。礫率7~40%程度で径3~40cm程度の垂角~垂円礫からなる。基質は、シルト混じり細~中粒砂からなる。下部ほど礫の含有率が多い。
- ③層(C, D3)：砂礫及びシルト混じり細粒砂を主体とする。橙色~明褐色(7.5YR6/6~7.5YR5/6)。礫率15~40%で径1~10cm程度(最大径40cm)の角~垂円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
- (A, B)：砂礫を主体とする。浅黄色(2.5Y7/3)。礫率20%程度で径1~7cm程度(最大径25cm)の垂角~垂円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
- ②層：細礫・砂混じりシルトを主体とする。灰白色(2.5Y7/1)。礫率3~5%で径5cm以下の角~垂角礫を含む。基質は、シルト混じり細粒砂からなり、砂層をレンズ状に挟む。

- ⑤ f: N9° E74° W
- ⑥ f: N5° E64° W
- ⑦ f: N25° E70° E
- f: せん断面

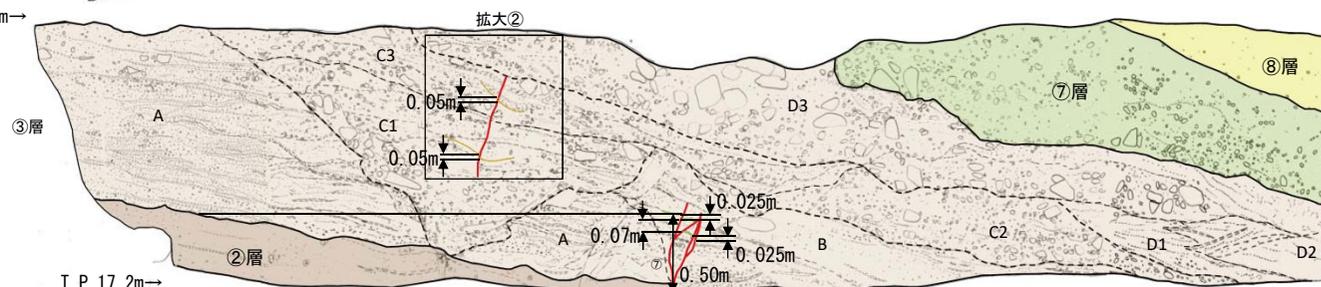
原電道路ピット東向き法面



原電道路ピット島状頂盤部(T.P.19.4m)



T.P. 19.4m→



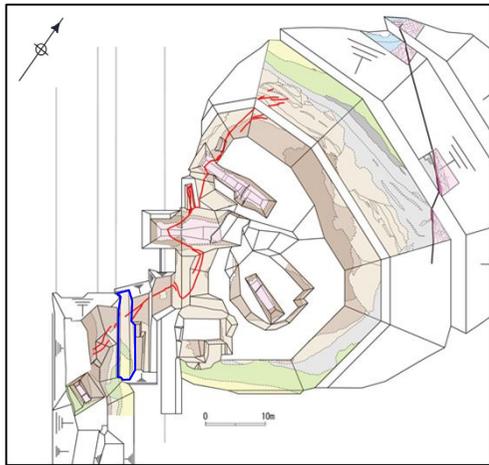
ふげん道路ピット東法面(上段)

2015年7月作成

凡例

⑧層	⑦層	③層	②層
せん断面	地層境界	層相境界(主要なもの)	



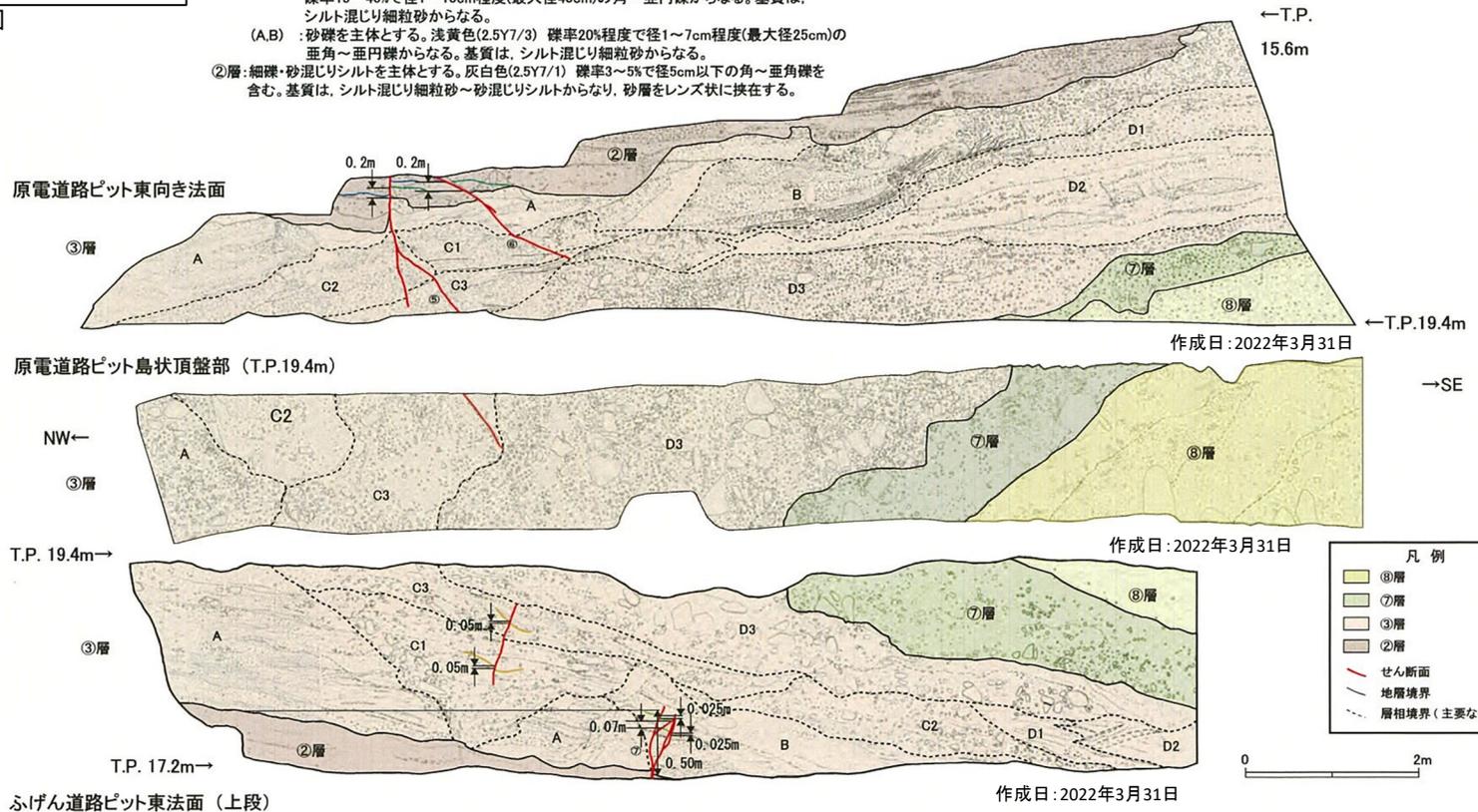


調査位置図

- 原電道路ピット東向き法面部では、K断層は②層及びC層(③層)までの地層に変位を与えているが、その上位の地層であるD3層(③層)は変位・変形を受けておらず、下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- ふげん道路ピット東法面(上段)では、C層までの地層に変位・変形を与えているが、その直上に分布するD3層の基底には、原電道路ピット東向き法面部と同様、K断層による変位・変形は及んでおらず、D3層は下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- これらのことから、原電道路ピット及びふげん道路ピットにおいて、K断層はMIS6以前に堆積したD3層に変位・変形を与えていない。

- ⑧層: 細礫・シルト混じり砂を主体とする。橙色(5YR6/6)。礫率5~10%で、礫は径2~4cm程度の垂角礫を含む。基質は、シルト質細砂からなり、細礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土及び砂質シルトをレンズ状~層状に挟在する。
- ⑦層: 礫混じり砂質シルト~砂礫からなる。明赤褐色(5YR5/6)~橙色(7.5YR7/6)。礫率7~40%程度で径3~40cm程度の垂角~垂円礫からなる。基質は、シルト混じり細~中粒砂からなる。下部ほど礫の含有量が多い。
- ③層 (C,D): 砂礫及びシルト混じり細砂を主体とする。橙色~明褐色(7.5YR6/6~7.5YR5/6)。礫率15~40%で径1~10cm程度(最大径40cm)の角~垂円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
(A,B): 砂礫を主体とする。浅黄色(2.5Y7/3) 礫率20%程度で径1~7cm程度(最大径25cm)の垂角~垂円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
- ②層: 細礫・砂混じりシルトを主体とする。灰白色(2.5Y7/1) 礫率3~5%で径5cm以下の角~垂角礫を含む。基質は、シルト混じり細粒砂~砂混じりシルトからなり、砂層をレンズ状に挟在する。

⑤:f:N9° E74° W
⑥:f:N5° E64° W
⑦:f:N25° E70° E
f: せん断面



凡例

⑧層	⑦層
③層	②層
せん断面	地層境界
層相境界 (主要なもの)	